



JAあそだより

平成19年6月



鍋ヶ滝(小国町黒瀬)



■今号12ページ主な内容

- JA阿蘇青壮年部・女性部通常総会
- メロンリレー販売(出荷)
- アスパラ選別機・結束機稼動、朝どり市全体会
- あそっ子スクール開校 ほか

●/▲ 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111/FAX 0967-23-1088

「青壮年部専門部会」(仮称) 立ち上げなど決定
新会長に阿南光政さん



青壮年部通常総会

JA阿蘇青壮年部の18年度通常総会が4月26日、代議員や盟友ら53人が出席しサンクラウン大阿蘇で開かれました。先ず、今村孝典会長が「わが国の農業政策は、品目横断的経営安定対策や新たな米需給調整システムの定着化に向け、大きな転換期を迎えている。このような中、さらに「JAグループと連携し担い手づくりである青壮年部の育成・組織基盤の強化が求められる」とあいさつ。続いて丸山組合長、田中女性部長らの来賓祝辞があり、議長に藤本一行さん(白水)を選出し議事に移行しました。議事では、第1号議案(平成18年度事業報告並びに収支決

算書承認並びに監査報告について)、第2号議案(平成19年度事業計画並びに収支予算書(案)の承認について)、第5号議案(役員改選について)などが審議され、議案通り承認されました。

特に、今年度の重点活動計画として、①「青壮年部専門部会」(仮称)を立ち上げ、組織の活性化、盟友の加入推進に取り組む。②消費者等への食農教育を通して「食の安全・安心」の理解を促進する。③JA組織・事業・運営の学習活動を通して、JA運営への参画促進。④集落営農組織育成への積極的参画。⑤「日本農業新聞」「地上」等の学習資料の普及・活用が取り上げられました。



農政報告を行う三浦一水参議院議員(写真左)新役員に選出された方々

総会終了後は三浦一水参議院議員による農政報告が行われました。尚、新役員には次の方々(敬称略)です。

- 会 長(高 森)阿南 光政
- 副会長(小国郷)下城 博志
- 「(二の宮)宮崎 英雄
- 委 員(久木野)橋原 薫
- 「(長 陽)西村 光広
- 「(阿 蘇)洞田貫真也
- 「(白 水)渡辺 司
- 「(高 森)三森 伸治
- 顧問(久木野)今村 孝典
- 監 事(一の宮)市原 恭一
- 「(小国郷)河津 宗範

「甘藷部会」創立35周年迎える 総会に併せ式典・表彰行う

西原中央支所甘藷部会は4月13日、平成18年度総会と創立35周年祝賀会を西原村構造改善センターで行いました。

総会では、岩木副部会長が「出荷量が減り販売高も落ち込んでいるが、今後とも一緒に頑張りましょう」とあいさつ。続いて丸山信義組合長が「同じ作物を作り続けるのは大変ですが、これからも今まで築き上げた産地として頑張ってください」と述べ、加藤義明西原村長らが来賓祝辞を行いました。

議事では、19年度事業計画書(案)及び収支予算書(案)についてなどが審議・承認され、甘藷消費宣伝会収支についてとフリー苗収支についても報告されました。

尚、今年度の表彰者は次の方々です。(敬称略)▽販売高Ⅱ(一位)馬場一昭、(二位)松永晴喜、(三位)堀田昭光▽優秀選果Ⅱ木下和子、島野美千代、中村ヨシコ。

引き続き創立35周年式典に移り、長年甘藷部会に貢献した三輪久さんと松浦茂次さんが功労者として表彰されました。その後、広島東部青果の田中敬二常務が「規制緩和に対応出来る生産と流通」と題し、記念講演を行いました。



写真はいずれも表彰式の様子

新部長に菅美佐子さん選出 女性フォーラム、ふれあいの旅実施など決まる

J A阿蘇女性部の平成18年度通常総会が4月25日、阿蘇市内牧のホテルで開かれました。総会には関係者ら約60人が出席しました。開会后、J A女性部組織綱領唱和に続き、田中弘子部長がこの1年の活動を振り返りながら、「今後とも農業に地域づくりに女性の参画は欠かせない。これからもJ Aの各事業と連携を図りながら、女性部の活動に積極的に取り組んでいきたいと思います」とあいさつ。そして来賓の後藤安弘J A阿蘇常務らが祝辞を述べました。



議事では議長に久木野支部の恵良妙子さんを選出し、第1号議案「平成18年度事業報告並びに収支決算書の承認について」、第2号議案「平成19年度事業計画並びに収支予算書(案)の承認について」、第3号議案「平成19年度部費の負担並びに収納(案)について」、第4号議案「役員選任(案)について」が審議され、議案通り承認されました。



特に本年度の事業計画として、「熊本県女性協活動新3カ年計画」の最終年度でもあることから、「かわろう・かえよう宣言」の取り組み強化に努め、同時に、J A運営の女性参画・J A女性組織の活性化を図るために、正組合員への加入促進を引き続き継続し、実践を伴った共同購入の強化、女性フォーラムの開催、ふれあいの旅の継続、家庭菜園コンタールの実施、学習活動の強化など促進していくことが決まりました。

演を行いました。高、新役員(平成19年より20年)は次の方々(敬称略)です。

部長(一の宮) 菅 美佐子
 副部長(高 森) 住吉りえ子
 副部長(小国郷) 杉本 いよ
 委員(久木野) 小林イツオ
 委員(白 水) 光木 精子
 委員(阿蘇町) 緒方 洋子
 委員(蘇 陽) 甲斐かつ子
 監事(長 陽) 宮崎ヒサ子
 監事(西 原) 吉川 由美
 参与(フレッシュミズ)
 江入 衣美
 顧問(組織代表理事)
 田中 弘子

来賓祝辞を述べる後藤常務

講演を行う徳永所長

新役員に選出された皆さん

旧役員の皆さん

J A運営への女性参画とJ A女性組織の活性化推進を



「安心・安全・新鮮」モットーに 小国郷ほうれん草部会査定会

J A阿蘇小国郷ほうれん草部会(宇都宮昭三部会長)は、これから本格的な出荷が始まるほうれん草の出荷査定会と総会を5月2日に開きました。

本年は生産者数182人、作付面積120haを予定しており、出荷販売計画として18万ケース、販売金額4億5000万円を目標に販売展開を図っていく計画です。現在、日量1000ケースが出荷されており、これから出荷のピークを迎えることで同部会では、出荷取り扱い方針に基づき、規格選別の徹底と適正農薬使用の厳守等の申し合わせを行い、安心・安全・新鮮をモットーに今年度の生産販売強化に取り組みます。

また、査定会の前に2006年度の成績優秀者表彰が行われ、時松達也、佐藤文幸、行部盛雄、佐藤瀬市、井国昭、佐藤勝昭の6氏が表彰されました。

総会では06年度の事業報告、収支決算報告と07年度の事業計画、収支予算が承認され役員改選が行われました。新役員は次の方々です。(敬称略)

▽部会長 宮崎博美▽副部会長 麻生博之・佐藤文博▽会計 筒井武士▽書記 穴井秀吉▽監事 秋吉泰宏・渡辺隆司

今年もシメ飾り作りを 小国郷中央支所年金友の会



小国郷中央支所年金友の会総代会(原山勝会長ほか60人)は5月8日、2006年度総代会を小国郷中央支所で開きました。

総代会では06年度の事業報告、収支決算報告と07年度の事業計画・収支予算について協議、今年も好評の正月用シメ飾り講習会と販売を行うことなどを決めました。

総代会後は、熊本県消費生活センターの石原課長補佐を講師に「悪徳商法からだまされないと」という演題で講演が行われ、事例に基づいた興味深い講話に参加者も聴き入っていました。

土壌分析で収量アップ ピーマン鉢上げ共同作業

蘇陽ピーマン部会(二宮博継部会長)は4月6日、J A阿蘇蘇陽育苗施設で2007年産ピーマンの鉢上げ作業を行い、セル苗で育苗された苗約3万本の鉢上げを行いました。

同部会は部会員数50人で、作付面積約8haを予定しており、全て露地栽培です。ピーマン苗については、5月連休前まで同育苗施設にて共同育苗し、連休明けより定植が本格的に行われました。

担当職員は「昨年度は栽培期間の天候不順により、単価高だったが収量は少なかったため、今年度は土壌分析を各圃場にて実施しており、品質向上と収量アップに部会全体で力を入れている」と語っていました。



鉢上げ作業を共同で行う部会員

鍋ヶ滝

以前も本紙で取り上げましたが、小国町黒瀬にある「鍋ヶ滝」は高さ約9m、幅約25mの滝です。滝の裏が大きくえぐれ、滝の裏側に回ることが出来ます。CM撮影で女優の松嶋菜々子さんが訪れたこともあって、今では小国郷の新たな観光スポットになっています。滝に向かう途中には坂本美術館があります。

鍋ヶ滝(小国町黒瀬)



リレー販売で
おいしいメロンを
春メロン出荷始まる



品質チェックを行うJA職員

J A阿蘇南部営農センター管内の西原集荷所では、5月8日より春メロンの出荷が始まりました。

同管内の春メロン作付面積はホームラン4ha、肥後グリーン2.3ha、レノン1.2haで、西原地区を皮切りに今後は白水・高森・野尻地区と収穫期間の切れ間が出来ないように、管内の低地から山間部へリレー販売(出荷)を行っていく予定です。

第一陣である西原地区ではホームランが5月末まで、肥後グリーンが5月中旬〜6月中旬まで出荷が行われます。

今年度は生育・玉肥大ともに良好で、担当職員は「期待以上の大

玉で糖度も15度以上あり、美味しく、安全・安心のメロンを消費者へ届けることが出来る」と自信を持って話していました。

「甘くておいしい
メロンはいかが」
試食販促フェアにぎわう

5月初めよりメロンのリレー販売を始めたJ A阿蘇南部営農センターでは「ホームラン」「肥後グリーン」ともに最盛期を迎え、例年実施している試食販促フェアを5月28日、熊本県庁地下で行いました。この試食販促は5年前からJ A阿蘇と阿蘇地域振興局が行っているもので、J A阿蘇職員や生産者が試食用メロンを片手に訪れた人に試食を勧め、売り込みを



試食用のメロンを勧める関係者

行いました。この日は「肥後グリーン」40玉、「ホームラン」80玉を1時間半で完売。不足分については予約で受付して順次発送することになりました。また、数量・期間限定「場外ホームラン」の予約も行われました。

この催しは例年行われているということもあり、1人で20玉買う常連客もいました。試食した客は「阿蘇のメロンは甘くて美味しいので、毎年この販売フェアを楽しみに待っている」と上々の感想をもらっていました。

ヒゴムラサキ
光沢・品質ともに
最高の出来!

高森地区では5月14日より特産「ヒゴムラサキ」の収穫が始まりました。部会員の三森一男さんのハウスでは3月22日に定植し、4月12日に受粉作業が行われた一番果が収穫されました。同部会では4人の生産者が3月からの早植えに挑戦。3月後半からの寒の戻りや4月に入ってから積雪など、厳しい栽培環境を乗り越えての収穫だけに、喜びもひとしおのようです。

三森さんは「ハウス内にトンネルを作り寒さ対策を行った結果、



収穫作業をする生産者

生育・品質ともに今までで最高のものが出来た。また、今年、挑戦してみたい技術なども見えてきたので、来年度は、部会内で早植えに取り組む農家を増やしていきたい」と抱負を語っていました。

J Aの担当職員も「今年は光沢・品質ともに最高の出来。早植えはこの時期にこそまで生育するならば、部会ではこの品質を上げていくために、定期的に講習会や現地指導を行っていく予定です。」

「ヒゴムラサキ」の果肉は大変やわらかく、果物のようにそのまま食べられるという特徴を持っており、部会ではレシビ集なども作成し今後の販売促進に役立てていく計画です。出荷は12月末まで行われます。

◆◆◆◆◆
**運営委員長に下城澄男さん
 選出求められる売り手の
 「個人ブランド」確立**
 ◆◆◆◆◆



部会員150人が参加した朝どり市全大会

J A阿蘇小国郷営農センターでは夏野菜の出荷時期を迎へ、更なる農産物の販売高アップへ向けた直販取引説明会を5月29日、小国郷中央支所情報企画センターで開催しました。

説明会へは部会員150人が参加。2006年度実績報告の後、07年度の朝どり運営委員の紹介があり委員長に下城澄男さんが選出されました。

その後、大分県(株)トキハイインダストリー前代表取締役社長渡邊正光さんによる「人口構成、世帯構成など時代の変革に伴う売り方

について」のテーマで講演がありました。トキハグループでは10年前より地産地消へ取り組み、そして販売展開を行っており、現在約5000戸の契約農家が登録されています。講演では、「消費者から直販を選ばれるためには、消費者の立場に立って考えることができる売り手(作り手)であることが大事で、信頼される売り手の個人ブランドの確立が最重要であると述べました。

全大会では、朝どり市における運営方針の説明と農産物栽培履歴の記載報告についての注意の指導がありました。栽培講習会では熊本県阿蘇振興局普及指導課の古水俊郎班長より、トマト・リーフレタス・ゴーヤ・ブロッコリーの栽培についての説明が行われ、(有)古野種苗園の古野和宏さんからは、これからの植え付け時期のお勧め野菜としてズッキーニー等の多彩な品種の特徴と作り方についての説明が行われました。

今年度は朝どり市の販売高の増大と併せて、大分大山農協との地域連携における販路拡大に取り組み、部会員の所得向上を図ることを申し合わせ、全体集会が終了しました。

◆◆◆◆◆
**アスバラ選別機・結束機移動
 販売目標を2億500万円**
 ◆◆◆◆◆

J A阿蘇は、強い農業づくり交付金を活用してアスバラ選別機・結束機を導入、5月30日、一の宮集荷場で落成式を開きました。

新しい設備は、これまで部会組織の一本化・一元集荷販売体制で有利販売を行ってききましたが、現状擴果施設の処理量の限界、受益面積の増加に対応するために導入されたものです。新システムは、C C Dカメラと重量センサーを搭



載した選別機2台と結束機3台に製品搬送ライン、資材搬送ライン、エア供給設備を設け、総事業費は1億2962万円。日量4tの処理能力を持ちピーク時も充分対応出来るものです。

当日は部会員・行政・メーカー！ J A関係者ら50人が出席。丸山信義組合長が「部会員のご協力により組織の一本化・一元集荷が出来た。完全オートメーション選別機の導入でさらなる部会の発展を図って頂きたい」とあいさつし、稼働式を行いました。

11月上旬までの選別で、作付13haから集荷325t、販売高2億500万円を計画しています。



新しく導入されたアスバラ選別機と結束機(写真上)で行われる集荷作業

「まるごと阿蘇」を思いっきり体験しよう!

今年度40人が参加し
「あそっ子スクール」開校

5月19日、「まるごとあそっ子スクール」の開校式が中部営農センターであり、第2回となる今年度は阿蘇郡市の小学校より40人が参加しました。先ず校長先生の丸山信義組合長が開校あいさつを行った後、全員で「まるごとあそ

写真は開校式、田植え、いちご狩り、カレー昼食の1コマ



っ子スクールの約束」を唱和しました。開校式終了後、子どもたちは園場に移動し、先生役の職員と泥まみれになりながら田植えを行いました。いちご狩りも体験しました。農業体験終了後は「A阿蘇女性部」によるカレーでお腹を満たして「まるごとあそっ子スクール」は12月まで5回開催予定です。



地元農家の技術を学ぼう! 九州東海大生が学外研修

南部営農センター管内では、夏秋野菜の特産「ヒゴムラサキ」から出荷が始まり、次いでピーマンなどが出荷を迎え、いよいよ本格的なシーズン突入の時期となりました。出荷が本格的になる前に、現在の生育状況と栽培技術を学びたいと5月31日、九州東海大農学部応用植物学科4年生2人が、高森地区で学外研修を行いました。当日は、南部営農センターの指導員とナス、ピーマンのハウスを訪問し、生産者から栽培技術や農業経営の話をお聞きしました。ナス生



産者の三森一男さんは「作業は先手、先手でいくことが重要なポイント。後手になって追われるような管理ではだめ」とアドバイスしていました。訪れた2人は他の学生数人と使われなくなったハウスを利用し、自分たちでもトマト、ナス、ピーマンを栽培しており、農家の話や実際の作業を見て大いに参考になったようで、今後も年間を通して栽培技術を学んでいく予定です。

南部営農センターの川元博美園芸課長は「自分たちが学ぶ阿蘇で、どのような野菜が作られているのかを学んでもらいたい。また、卒業後は農業関係の職場に勤めて、若い力を発揮してほしい」と語っていました。



ヒゴムラサキの栽培管理を学ぶ学生

3Q訪問プロジェクトで
目標達成を！
06年度優秀3職員も表彰

J A阿蘇は「組合員・利用者」日本の農業・食料を愛する方々に選ばれ、信頼される「JA共済」実現に向けて、2007年度「共済事業普及推進大会」を5月26日、阿蘇市で行い役員480人が出席しました。

原山輝義常務が「できない・むり・むずかしい」の先入観を捨て、全戸訪問にて3つの共済の質問(3Q訪問プロジェクト)を行い、コミュニケーションを図って頂きたい」とあいさつ。

式典では、06年度優秀な成績を取って表彰を受けた職員の紹介や普及推進目標の説明が行われ、早期必達に向けダルマ入魂が行われました。

また、JAの松村浩市職員が「JA阿蘇の組合員さんは自分たちの手で守る」と決意表明を行い、全参加者によるガンパロウ三唱を行いました。

今年は長期共済427億円、年金共済3億1900万、がん・定期医療共済1100万の目標が設定されました。

06年度優秀職員表彰は次のとおり。(敬称略)

▽全共連熊本県本部【新人の部】梅木利子、【自動車共済の部】田上修二、【特別表彰】藤屋ヒロ子



原山常務のあいさつ(写真上)
ガンパロウ三唱を行う役職員

農協運動の原点に立ち返り
地域農業・地域社会に貢献を



J A阿蘇は、事業目標必達に向け全職員が事業の方針や計画を十分に把握して取り組むことを目的とし、2007年度全体職員事業推進大会を5月26日、共済事業普及推進大会に引き続き開催、480人が参加しました。

後藤安弘常務が「地域の中心的地位にある農協の本来果たさなければならぬ使命を、もう一度検証しながら、農協運動の原点に立ち返り努力して頂きたい」とあいさつ。



大会では07年度のJA阿蘇基本方針「組合員・利用者の利便性を確保し地域との共存共栄を目指し、地域農業・社会に貢献する活動の展開」が説明され、事業方針・計画を各部室長が説明しました。各部門からは、代表事業所による重点取り組み事項が発表されました。また、JA熊本中央会の高道和喜経営組織部長が「コンプライアンス態勢確立に向けて」と題して講演を行いました。

写真は役職員が参加した
事業推進大会



J A職員86人に 認定証書を交付



2006年度農協職員資格認定証書交付式が3月29日、一の宮中央所で行われ06年合格者86人に認定証書が授与されました。

J A阿蘇合併以来の多数の合格者に後藤安弘常務は、「忙しい中で勉強した努力はみんなが認識している。今後も自負と自信を持って業務を行ってほしい」とあいさつしました。

資格試験の取得率は05年度に比べ17%増加し、J A阿蘇では今後とも取得率の向上に向けた取り組みを行います。

後藤常務より認定証書を受ける合格者



さらにJ A阿蘇の情報発信を J A阿蘇広報通信員会議

地域や組合員活動の情報を提供する日本農業新聞の広報通信員会議が5月17日、J A本所で開かれ9人が出席しました。

会議では新しい通信員4人を加え2006年度の実績報告と07年度の情報発信や取材の対応を協議され、06年度より多くの情報が提供できるよう確認していました。

安心・安全の追求を！ ガス器具特別推進期間を前に LPガス担当者研修会

J A阿蘇では、6月より2ヵ月間「ガス器具特別推進期間」を設定。LPガス未利用組合員の切り替え及び新規顧客の獲得により、利用率の向上と取扱数量の拡大を図ろうと5月17日、LPガス担当者研修会を本所で開催しました。

先ず伊藤健司購買部長が「研修の成果を十分に発揮し、推進活動に役立てて頂きたい」とあいさつ。参加者は、講師となった経済連・

また、佐藤義磨総務部長からは「本来業務の兼務になるが、組合員・地域のために通信員としてがんばってほしい」と激励があり、通信員一人一人に委嘱状が交付されました。



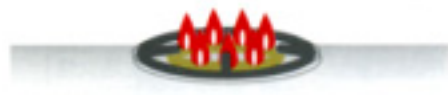
委嘱状の交付を受ける通信員



具体的な製品説明をしながら行われた研修会

クミアイプロパン・メーカーの各担当者から、「安心・安全を追求しここまで進化したガスコンロ」というテーマで、取扱商品の機能取得・知識の向上を学びました。また営業のポイントなどについての質疑応答も飛び交い、実践に備えていました。

特別推進期間中は、目玉商品も取り揃えられ1000台の売上げを計画しています。



今秋のオープンを目指し JA阿蘇斎場の起工式

JA阿蘇の斎場起工式が5月9日、阿蘇市の現地で行われました。JA阿蘇では斎場を所有しておらず、これまで主に自宅葬が行われていますが、今後の利用者のニーズに応じた斎場事業を展開するため建設されることとなりました。

斎場は一の宮中央支所横に建設し、規模は延べ面積465平方メートル、最大100人収容可能なホールをはじめ、法事室兼通夜室を設け、総事業費は約1億円で、今年9月に完成し10月オープンを目指しています。

起工式にはJA役員や経済連、建設業者ら約40人が出席。神



起工式で神事を行う丸山組会長

JA阿蘇斎場の名称公募について

現在、一の宮中央支所東側に斎場の建設が進められていますが、その斎場の正式名称が決定されていませんので、「JAあそだより」にて斎場の正式名称を公募致したいと思います。つきましては、下記期日までに各中央支所長・支所長まで斎場名を御記入の上、応募願いますようお願い申し上げます。

記

- 1・提出期限 平成19年6月30日迄
 - 2・応募用紙 各中央支所・支所に準備しています。
- ※ 応募者の中で名称の決定をされた方には記念品を送ります。

事では丸山信義組合長や堀川健次経済連施設生活部長が玉串をささげ、工事の安全を祈願しました。そして丸山組会長が「地域に密着した安心できる斎場にしたい」とあいさつしました。



JA阿蘇職員異動のお知らせ

氏名	新 辞 令	発令年月日	旧 辞 令
飯屋 澄子	蘇陽中央支所金融共済課金融共済係兼女性部係(蘇陽)	平成19年4月13日	蘇陽中央支所金融共済課金融共済係
甲斐 一誠	一の宮中央支所長兼共済課長	平成19年5月16日	一の宮中央支所長代理兼共済課長
高橋 鶴也	一の宮中央支所金融課長	平成19年5月16日	一の宮中央支所金融課長代理
井 美子	一の宮中央支所長代理(課長待遇)兼金融係	平成19年5月16日	一の宮中央支所金融共済課金融共済係
矢羽田 浩史	小国郷中央支所金融課情報企画センター係	平成19年6月1日	小国郷中央支所購買課小国給油所係
有働 美由紀	南部宮農センター事業課南部地区女性部統括兼女性部担当(白水・久木野・長閑)	平成19年6月4日	宮農部宮農企画課福祉係兼女性部統括
筑紫 百合香	宮農部宮農企画課福祉係兼女性部統括兼女性部担当(一の宮・波野・塚山)	平成19年6月4日	中部宮農センター事業課福祉生活女性部係(一の宮・波野・塚山)兼庶務係(一の宮駐在)

理事会・監事会報告

■ 平成19年度第1回理事会

日時 平成19年4月20日 午後2時00分

場所 一の宮中央支所会議室

- 1.開会
- 2.組合長挨拶
- 3.協議事項
委員会報告(経済専門委員会)
3月末実績報告
 - 1) 平成19年度信用供与の限度について
 - 2) 平成19年度貸付金利率の最高限度及び借入金の最高限度について
 - 3) 平成19年度家畜導入事業利率及び農協助成金について
 - 4) 「JA活動総合3カ年計画」(案)について
 - 5) 定款、定款附属書役員選任規程及び定款附属書総代選挙規程の変更について
 - 6) 規約の変更について
 - 7) 農業倉庫業務規程の変更について
 - 8) 宅地等供給事業実施規程の変更について
 - 9) 監事監査規程の変更について
 - 10) 貸付金について
 - 11) 固定資産処分について(久木野中央支所旧購買店舗)報告事項 平成18年度全国監査機構決算監査の実施について
報告事項 役員報酬審議会報告

■ 平成19年度第2回理事会

日時 平成19年5月2日 午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

- 1.開会
- 2.組合長挨拶
- 3.協議事項
委員会報告(債権管理委員会)
 - 1) 平成18年度資産査定結果について
 - 2) 平成18年度事業報告書、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分(案)及び附属明細書について
固定資産減損損失による目的積立の取り崩しについて
 - 3) 平成19年度事業計画及び関連事項について
 - 4) 平成19年度余裕金運用について
 - 5) 役員候補者推薦内規の改正について報告事項 「JAバンク基本方針」の変更について
報告事項 平成18年度表彰者について

■ 平成19年度第3回理事会

日時 平成19年5月30日 午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

- 1.開会
- 2.組合長挨拶
- 3.協議事項
 - 1) 平成18年度決算期末監事監査報告について
 - 2) 平成18年度最終決算について

- 3) JA活動総合3カ年計画について(最終)
 - 4) 総代会事前説明会の開催について
 - 5) 出資減口について
 - 6) 貸出金について
 - 7) 畜産近代化リース事業について
 - 8) JAマイカーローン金利対応について
 - 9) 農業生産資金(農機具購入)及び農機ローン金利改定について
 - 10) 一の宮畜場経営方針について
 - 11) 購買事業推進目標について
- 報告事項 JA活動総合3カ年計画進捗状況について
-
- (平成16年度～平成18年度)

■ 平成19年度臨時理事会

日時 平成19年4月28日(土) 午前9時

場所 一の宮中央支所大会議室

- 議題 1) 国産粗飼料増産緊急対策事業について

■ 平成19年度臨時理事会

日時 平成19年5月13日(日) 午前8時30分

場所 一の宮中央支所大会議室

- 議題 1) 国産粗飼料増産緊急対策事業について

■ 平成19年度第1回監事会

日時 平成19年4月18日 場所 本所会議室

- 1.開会
- 2.挨拶
- 3.議題
 - 1) 平成18年度導入家畜等棚卸監査回答書について
 - 2) 平成18年度決算監事監査手続書について
 - 3) 平成18年度全国監査機構期末監査実施について
 - 4) 平成19年度各監事に対する報酬額支給方法について
 - 5) その他

■ 平成19年度第2回監事会

日時 平成19年5月25日 場所 本所会議室

- 1.開会
- 2.挨拶
- 3.議題
 - 1) 平成18年度決算監事監査報告書(案)について
 - 2) 監事視察研修について
 - 3) その他

■ 平成19年度第3回監事会

日時 平成19年5月30日

場所 一の宮中央支所小会議室

- 1.開会
- 2.挨拶
- 3.議題
 - 1) 平成18年度決算監事監査報告書について
 - 2) 平成18年度全国監査機構決算監査報告書について
 - 3) その他

JA阿蘇きらり

「意外と明るいじゃん」



長陽中央支所 金融共済係

上島 由香(うえじま ゆか)

昭和63年2月生まれ(住所=阿蘇市永草)

取材で事務所に入るなり、他の職員が「明るいところで写真撮影をお願いします」といきなりの発言。何かと思いつながら取材を始めました。

入組1年を経過。アットホーム的な職場で毎日楽しく仕事に取り組み上島さん。高校時代は友達から「おい」と呼ばれていたそうです(うえじまの「じ」をなぞってからとか)。中学時代は吹奏楽部、高校時代は書道部に所属し活躍したようです。しかし、書道部には年間通じて文化祭の文字を書くだけの活動だったとか…。

職場では出納業務から窓口業

務に変わり、組合員の顔も随分覚えてようです。休日は買い物に出かけ、甘いものが大好きな上島さんは変わったお菓子を探するのが趣味とか。例えば「きなこもちアイス」や「黒蜜」「チロルチョコきなこもち」など(筆者は全く知りませんでした)。

「組合員のみなさま、がんばりますのでよろしくお願いします。今は頼れる年上の男性を募集しますので上島さん。人見知りをするといいながら明るかったです。あつ、明るいところでの写真撮影の事は本人に聞いて下さい。

直線・曲線の名作田… 生協組合員家族が田植え体験

小国郷官農センター管内で5月26日、JA赤とんぼ米生産部会(北栄次郎部会長)とグリーンコープ生協くまもと県央東地域本部(山本睦子理事長)の組合員家族約60人が、5月の水田に「あきげしき」苗を家族ごとに立て札の付けられた水田に手植えし、約30分で直線・曲線の入り混じった「名作田」が出来上がりました。田植え後は集会所で昼食交流会があり、水稲作りや米に関する「O×クイズ」などで親睦を深めました。赤とんぼ米生産部会は今年度、無農薬米600俵、減農薬米1400俵を同生協に出荷予定で



“生協の家族”が一斉に田植え体験

宮地小5年生と農業体験交流 JA阿蘇青壮年部が田植え指導

阿蘇市立宮地小5年生60人が青壮年部盟友の水田で5月31日「阿蘇コシヒカリ」を田植えしました。米作り体験は7年前からで、青壮年部一の官支部が小学校と一緒に食育、総合学習の一環として行ってきました。子どもたちは支部長の宮崎英雄さんから植え方を教わり、ぬかるむ土に苦勞しながらも18丁を2時間ほどで植えましたが「楽しかった」と笑顔で話し、収穫後の白ご飯を楽しみにしているようでした。今後の水管理は青壮年部員が行い、2回ほど草取りを児童が行う予定です。



青壮年部の指導で田植えをする子どもたち